

1 部

学習サポート

6 / 11 ~ 8 / 7 の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2014』1部に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
7月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	7月9日(水)
夏期スクーリングⅢ (7/19~7/28)	申込みハガキ	6月26日(木)
夏期スクーリングⅣ (7/30~8/13)	申込みハガキ	7月10日(木)
夏期スクーリングⅤ (8/15~9/7)	申込みハガキ	7月24日(木)
オンデマンド・スクーリング	申込みメール	6月16日(月)正午 ほか『With』99号 p. 36および本冊子 p. 48表参照
特講・福祉心理学5 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	6月26日(木)
7月在宅web科目修了試験	レポート・ 申込メール	6月24日(火)正午
追加履修夏期分申込み	巻末申込用紙	6月20日(金)

	受付日
レポート (レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)	6月24日(火) 7月4日(金) 7月18日(金) 7月29日(火) 8月7日(木)

※「スクーリング受講者専用別レポート」締切：(郵送) 受講後1カ月以内
(オンデマンド) 5部参照

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締切日	備考
★社会福祉援助技術演習A・◆演習I スクーリング受講申込ハガキ (『With』98号巻末申込ハガキ) <u>※6/15 or 6/30までの受講条件達成も必要。</u>	6/28～7/20 (6/30締切の申込の場合7/12～7/20)の会場で、 <u>定員に余裕のある場合のみ受付。</u> 受講希望者 →6月15日(日) or 6月30日(月)	『レポート課題集2014(社会福祉編)』 「★演習A」 p. 133～137 「◆演習I」 p. 187～191
★社会福祉援助技術実習指導B-3 +★社会福祉援助技術演習C-2 ・◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) スクーリング受講申込み (配付済の申込用紙)	8～10月受講希望者 →7月15日(火)	(注) 『レポート課題集2014(社会福祉編)』 「★指導B」 p. 151～154
★社会福祉援助技術演習C (2日間連続型) スクーリング受講申込み (『With』97号巻末申込用紙) <u>※6/20までの受講条件達成も必要。</u>	7月受講希望者 →6月20日(金) ※実習免除者・科目等履修生での実習希望者対象	「★演習C」 p. 142～146 「◆指導」 p. 196～198 +『試験・スクーリング情報ブック2014』 p. 36～37

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
■精神保健福祉援助演習C (実習免除者用) 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	5/17・18受講済者 →6月20日(金)	(注) 『レポート課題集 2014(社会福祉編)』 「■演習A」 p. 237~240 「■演習B」 p. 241~245 「■演習C」 p. 246~249 「◆★演習」 p. 266~270 +『試験・スクーリング 情報ブック2014』 p. 37~41
■精神保健福祉援助演習B 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)	9月受講希望者 →6月30日(月)	
■精神保健福祉援助演習A 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	6・7月受講済者 →7月31日(木)	
◆★精神保健福祉援助演習 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	6/28・29受講済者 →7月31日(木)	

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
介護実習事前事後指導 事前レポート	7/19~21受講希望者 →6月20日(金)	『レポート課題集 2014(心理・教職編)』 p. 161~168
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出	8月実習開始者 →6月15日(日) 9月実習開始者 →7月15日(火)	※事前指導受講済 者のみ対象

障害者(児)教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除の ための書類提出	8/2・3受講免除希望者 →6月19日(木)	(注) 『レポート課題集 2014(心理・教職編)』 p. 254～259 + 『試験・スクーリング 情報ブック2014』 p. 42
障害者(児)教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング申込み	8/2・3受講希望者 →7月10日(木)	
障害者(児)教育実習の事前・事後指導 実習事前課題	<u>8/2・3受講済み</u> <u>で10月実習開始者</u> →8月7日(木) (11月以降開始者 は8/15)	

■その他

●卒業研究

- ・提出締切（社会福祉学科・社会教育学科） 6月18日(水)
- ・提出締切（福祉心理学科） 7月30日(水)
- ・2回めガイダンス申込締切（福祉心理学科） 7月1日(火)

●10月生進級予定者

- ・転学科希望届提出締切 7月20日(日)

●9月卒業希望者

- ・初回レポート提出期限 7月20日(日)

●幼保特例講座（保育士資格取得希望）

- ・「乳児保育」「相談支援」スクーリング申込 6月30日(月)

学びのチャンスがまっています

准教授 大関 信隆

認定こども園法改正にともなう幼稚園教諭免許状・保育士資格取得特例の講座（幼保特例講座）を受講の皆さま、はじめまして。「幼児理解と保育相談」を担当しております大関です。この度は学習支援と学生の皆さんへのメッセージを書くチャンスをいただきましたので、日頃考えていることを少しでも書き綴ってみたいと思います。

はじめに

既に本講座を受講されている皆さんにとって、認定こども園の趣旨を改めて述べる必要もありませんが、保育所や幼稚園という、就学前に子ども達が所属する環境は彼らの育ちにとって非常に重要な場となります。その育ちの場に少しでも多くの子ども達が参加でき、豊かな経験を積み上げることができるための一つの施策として、この法律が立てられたと理解しています。本講座を受講された皆さんには、ぜひその一翼を担っていただきたいと切に願っています。

心理学から見た幼児の理解

私は心理学プロパーの人間なので、今回は心理学という学問領域からみた幼児の理解を考えてみたいと思います。心理学とは人間の行動を心理、つまり精神機能から説明する学問です。精神機能とは脳の機能と言い換えることができますので、おおよそ私たちの殆どの行動に関連してくるものです。人間の精神機能にはどのようなものがあるのか、それらの機能はどの

ように変化成長するのか、そして行動にどの様に影響を与えるのか、というメカニズムを心理学では考えています。そしてこのメカニズムがある程度想定できるからこそ、カウンセリングや心理療法といった、心理学的知見を用いた対人援助ができると考えています。心理学は人間一般の精神機能に関する理論をまずは土台として、加えて精神病理や治療方法等の理論も使いながら、その先にある対人援助技術の提供を目指していると言えます。

一方で、近年教育領域では一人ひとりの子どもの理解、いわゆる「個の理解」が重要になっています。個々人のニーズは様々であり、そのニーズにあったサービスを提供することが保育や教育の現場でも求められています。ところで「個の理解」をするためにはどのような力が私たちに求められているのでしょうか。個を理解するためには、その「個」をつぶさに見れば理解可能なののでしょうか。私はそれだけでは少しばかり足りない部分があると考えています。その対象がどのような特徴を持っているかは、その対象が含まれる集団の特徴を知らないことには語れません。心理学の低位領域である認知心理学では人間の知覚における「図と地」の役割を説いています。それによると、私たちが主題である「図」を認識できるのは、その背後に「地」があってこそ、ということです。確かに、暗闇の中では対象は見えてきませんね。これを人間理解に当てはめると「地」という人間の一般像を理解できるからこそ、「図」としての「個」を正しく詳細に捉える事ができるのだ、と言えるでしょう。

幼児の理解もまた然りです。幼児の発達の様相は様々です。言葉の発達一つとっても「初語は1歳」という知識は言わば「地」となる知識ですが、この知識は万人に当てはまるものでもありません。ですから、「そんなことは知らなくてよい。早い子もいれば遅い子もいるのだから、その子の成長に合わせて関わればよいのだ」という、図のみを中心に据えた考えが生まれることも理解できます。しかし関わりというものは、その対象の特性

や置かれた状況，そしてその先にあるものが解って初めて十分に提供できるものだと思います。なぜ初語が1歳頃なのか，2語文が2歳ころなのか，という「地」を学ぶ中で，幼児の情報処理の発達の有り様や，他者や事物に対するイメージ能力の発達も知ることとなります。そういった「知識の横への広がり」が進むことで幼児一般の精神機能に関する発達特性とそれらの絡み合いが理解でき，同時にその発達特性の揺らぎに関する理解も得ることができます。そのような知識が「一般の子ども」像を確かなものにし，同時に「目の前にいる子ども」のもつプラスとマイナス両方の特徴を外れなく捉える力に繋がるのです。これこそ「個の理解」にとって必要となる力だといえるでしょう。

大学での学びの意味

大学の学びはある部分は「理屈」が多く，ややもすると「抽象的」で「現実感の薄い」ものだと感じる場面もあるかも知れません。しかし抽象的な内容はそれを現実場面に落とし込むことができます。そして本講座を受講されている皆さんは，まさにそれを最大限に活用できるチャンスがあるのです。現場に出て，これまで多くのリアルな事象に出会ったことでしょう。そして，それらが何を意味したのか，ややもすると振り返る時間もなく日々の業務に追われ過ぎたかも知れません。「この関わりや考え方が妥当なのかどうか」なにか後ろ盾が欲しいなと感じたことはありませんか？ このような思いに対して大学での学びは大きな支えとなります。大学でもう一度知識を積み上げ直し整理し，それを使ってご自身の経験をご自身で説明することで，強固で偏りのないしっかりした「地」が作られます。学術の知が，皆さんが日々の活動の中で積み上げている臨床の知と有機的に融合するチャンスなのです。

本課程は特例措置ということもあり授業として取得する単位数自体は少

なく限定されています。ですがこの学びの経験をステップに、子どもや保育に限定せずぜひ多様な学術書に触れてみてください。学びのチャンスは様々なところに落ちています。「面白いな！不思議だな！」と思い探究することで、一見すると取るに足らないでき事であっても、それに意味が出てきます。福祉大での学びのきっかけが皆さんの専門家としての成長に少しでも役立てば幸いです。一緒に頑張っていきましょう。

スクーリング・アンケートより

アンケートより講義の感想を抜粋いたしました。

●社会福祉援助技術総論

- ・ここまで面白くわかりやすい講義を受けたのは初めてでした。資料に載っていない細かな情報などを通して良い刺激を受けました。相談者としてのリアルなお話はとても興味深いものばかりでした。
- ・援助者として援助を行っていく上で、利用者にどのような援助を提供していくか、そのための段階をどのように踏んでいかなければならないかという部分を改めて学習できた。
- ・先生の現場でのお話は大変参考になり、中でも「利用者が自己決定する大切さ」に関する事例を用いたお話は目からウロコが落ちたような気がしました。
- ・「専門知識・技術は自分のためではなくて相手（利用者）のために身につけるもの」という言葉に意欲がわきました。

●精神保健福祉援助技術総論！（精神保健福祉援助技術総論）

- ・“当たり前”を素敵なこととしてまず自身が感じることは、はたしていつもそれができているか？と考えさせられました。
- ・先生が「支援していく利用者さんが変わっていったり、とんでもない力を発揮したりしていくのを間近で見られる、関われるのが、仕事を辞められなくなる理由」と話されていたので、自分もそんな関わりができるように学習していきたいと勇気づけられた。

●高齢者福祉論

- ・高齢者特有の課題を認識することができてよかった。高齢者に対し、老後は自己責任として済ませるのは社会的問題であり、我々一人ひとりが声をあげねばならないと考えさせられた。
- ・考え方次第で、地域での多様な協働・連携ができることを知った。

●生涯発達心理学

- ・青年期の話が今私の直面している問題なので印象深かったです。
- ・理論ではこうだけど、それに外れたからといってダメではないということ、有名なエリクソンの自我同一性の確立は一生の課題であることなど、この講義を受けなかったらわからないことが多くありました。その上で発達とは積み重ねであるという先生の言葉はとても印象に残りました。